

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年4月30日

【評価実施概要】

事業所番号	1170201691
法人名	株式会社マシメディカルサービス
事業所名	グループホームラポール北原台
所在地	〒333-0815 埼玉県川口市北原台1-6-1 (電話) 048-291-6333

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年4月22日

【情報提供票より】(20年4月4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年3月1日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤 14人, 非常勤 12人, 常勤換算	21.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階	~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	35,500円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり1,500円			

(4) 利用者の概要(4月4日現在)

利用者人数	25 名	男性	8 名	女性	17 名
要介護1	2 名	要介護2	9 名		
要介護3	8 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	67 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	益子病院、グリーンセンタークリニック、金子歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

武蔵野線東川口駅から徒歩5分程度の住宅街の一角に2階建ての当事業所がある。周辺は緑が多く公園の中にあるような雰囲気である。駅周辺にはコンビニ・外食産業もあり、日常生活や散歩コースには事欠かない。散歩を可能な限り日課に取り入れ、体力低下防止にと考えている。1階にケアつき住宅9室と1ユニット、2階に2ユニットのグループホームがある。経営母体は病院で、同市内に老健・デイサービス・訪問看護ステーション等関連施設を開設しており、体調を崩した場合のバックアップ体制は整っている。共有空間は木調で整えられゆったりとしておりベランダも広い。敷地内に菜園やお花畑もありゆったりと暮らせるホームである。利用者は表情も明るく自分のできることを楽しく引き受け行っている。管理者は介護サービスをより良く利用者の目線で考えたいと前向きな姿勢であり、前年度の外部評価の課題も改善されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営理念を利用者や家族の目線に合わせて掲示し文字の大きさも改善されている。地域密着型事業所としての運営理念の表現がされていないが、地域との交流の充実を目指し努力されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全体会議・フロア会議で外部評価の課題事項を検討し、刃物の置き場所・ケアプランの改善・運営推進会議の開催など実現した。今回の自己評価は管理者が中心となってまとめているが、職員は自己評価の意義も理解し活用もされている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>2ヶ月に1回、平日に1時間開催している。フロア長・地域包括支援センター職員・家族代表・市担当者で構成され議事録も整理されて努力の跡が伺える。今後開催日を平日から土曜に変えたいとの意向から、出席率を上げたいとの工夫に伺える。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>事業所便りを毎月発行し家族に個人宛手紙と一緒に郵送している。緊急時は電話で連絡したり面会の機会を捉えて、現状報告に努めている。苦情や意見などが寄せられた場合は、全体会議やフロア会議で検討し運営推進会議で報告している。また、家族会議は持っていないが、運営推進会議に家族代表者の参加を得ている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の方がボランティアに来てくださる他に、運営推進会議の構成員に参加してもらっている。事業所としては町内の新年会や祭り、清掃に参加している。町内会等には発言できる利用者が交代で一緒に行っており、今後は地域の方を招いて認知症の学習会や介護相談などを開催したい意向である。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	紙芝居ボランティアの参加に、地域の子ども達を迎え駄菓子屋さんを開くなど、地域に密着した事業所として取り組んでいるが、理念については旧来のものである。	○	これまでの理念に加えて、地域密着型サービスの役割が反映されたものになることを期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の掲示と共にフロア会議で理念の共有化を図っている。例えば、ADLの維持向上を目指し毎日の散歩・近所の方との挨拶・その人のできる役割を支える等、具体的な目標を共有化しながら理念の共有を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会にも参加し、ボランティアを受け入れるとともに町内のお祭り・新年会・清掃などに参加している。介護保険課へいく場合も可能な利用者は職員と一緒にいるなど、地域の中の暮らしを実感してもらえる工夫をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を全体会議・フロア会議を通じ共有化し、課題事項の改善に努めている。刃物の置き場所・玄関周りの花壇の手入れ・理念の掲示・ケアプランの充実・運営推進会議の開催等実現された。今回の自己評価においては管理者中心にまとめている、	○	自己評価は職員の参加を得て検討されることが望まれる。時間的な問題もあると思われるが、具体的な自己評価を自分達で行うことで自分達の仕事の見直しにつながり学びの場ともなる。次回は計画的に皆で知恵を出し合っ自己評価されることを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回平日に開催し、議事録も取られている。構成員に家族代表者・地域包括支援センター職員・地域住民の代表者等を迎えて実施している。運営推進会議の成果として、防災訓練の連絡報告・感謝祭のポスターを公民館に掲示すること等実現できたことが挙げられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員の巡回が今年4月にあった。介護保険課や在宅支援センターとの交流は情報収集を含め役立っている。市が主催する認知症の実技研修なども参加している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便り「こんべいとう」を毎月作成し家族に送付している。また、利用者別に担当者が手紙形式で郵送し、小遣いの預り金の報告は小遣帳のコピーと領収書を送付している。緊急時の連絡は電話で、面会時には相談ごとなど聞くように心がけている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会議は持っていない。運営推進会議への家族代表3名からの意見を中心に面会時の意見・苦情なども踏まえて検討している。ご意見箱は設置しているが殆ど意見は入っていない。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2～3年職員の異動はなかった。基本的に実力同等の人との交代をし、1ヶ月前の発表にしている。家族には面会時を捉えて報告している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	規約どおりの年間研修計画はない。外部研修は出勤扱いとして研修費や交通費を保証している。関連グループの研修も業務の都合で参加できない状況であるが、積極的に研修に参加する必要性を感じている。研修ノート・復命書は作られている。	○	研修の年間計画を立て内部研修・外部研修・同系列事業所の研修等組み合わせ、誰もが学びあう職場内風土を作ることが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣グループホームの見学を実施し交流を図っている。ユニット単位で職員報告会を持ち学ぶ機会にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心納得の上入居するために、見学または空室があれば1週間から1ヶ月の体験入居を勧めている。また、馴染みの場所・馴染みの人・行きたい所・会いたい人・頼りにしたい人・支えたい人等の項目に答えてもらい、情報に加えその人らしい個別具体のサービスにつなげる努力をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食事作りの場面で、利用者から野菜の切り方・味付け等学ぶとともに、戦争体験談等、自分達の知らない時代の事を教えられる。また、介護度の高い人から一寸した事でも有難うと言われ、職員は逆に有難うを言いたくなる程、励まされ支えられている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の実態調査や体験入所の折、本人本位にかかわれるように思いや意向を捉える努力をしている。本人とのコミュニケーションの他に家族との面会時に思われぬ情報を得られることもある。ADL情報に偏りがちなので、社会性を追加情報で捉え共有化できるように書式を検討中である。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>各ユニットの介護計画作成担当者は実態調査やその後の情報収集から、アセスメントし計画立案をしている。3ヶ月に1回の会議は原則全員参加で、居室担当職員にADL状況の意見をもらい介護目標の調整を図っている。家族には電話で報告し面会時確認印をもらい、本人には可能な限り要望を確かめている。緊急異常事態では随時調整変更を行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>14・15項目を受けてアセスメントにつながった計画立案・実施記録から見直しを行っている。記録上計画立案日・評価日などの記述もあり、状況の変化に応じた計画の修正も実施している。緊急時の計画変更は計画作成担当者を中心に当日の勤務者3～4人で実施している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の経営母体は病院で、ディサービス・訪問看護ステーション等もあり、定期受診・緊急入院などバックアップ体制が整っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の受診希望の有無を確認し、受診対応は家族が同行している。一方、入居後1ヶ月2回の事業所協力医院に受診する場合対応は職員が行い、専門医受診が必要な状況には紹介状をもらって戸田病院に受診することができる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化終末期の方も受け入れたいと考えているが、規約の作成や職員教育もこれからである。また、利用者個別の希望はまだ確認していないが、家族の中には入退院を繰り返す中で最期までこのホームを希望される方もいる。	○	重度化・終末期の利用者対応については、話し合いを持ち、本人や家族の意向を確認しながら方針の統一を図っていくことが求められる。規約作り、職員体制の整備、職員教育等、十分な体制作りをし、同系列病院とも相談し合ってより良い方向で前進されることを期待したい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入職時に個人情報保護法を学んでもらい、同意書の確認・利用者個室の出入りも必ず声掛けをし、入浴介護の見守りにも注意を払っている。また、書類は事務室奥に目隠しをして置いてある。家族の求めに応じ個人情報のコピーは契約書に謳っている。退職後も知り得た個人情報保護については厳守している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人本位その人らしくをモットーに介護している。例えば朝体調を見てから今日は何をしたいか希望を確認し、個人の要望にも応じている。また、生活歴からその人の持てる力を発揮する場も考え自尊の念を持てるよう対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は皆で作るが昼・夕食は盛り付けをすればよいように関連施設から運ばれる。味噌汁を温めたり盛り付けをしたり、食卓の準備や片付けなど各々出来ることを手伝い、食事が楽しみの声も聞かる。嗜好に合わせ硬い物は別の物に替えたり刻み食にし、職員はさり気なく支援に入り、時には希望を聞いて夕食をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日があり、当日体調不良の場合清拭で対応している。また、入浴時間は職員体制により朝から夕方4時までとしている。入浴の必要性や希望があれば、入浴日でなくても対応できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	体調・好みに応じ本人本位を大切に何をしたいか確認して始めている。日課の散歩や行事も強制はせず、生活歴からその人の好みやできる事を引き出し支援している。また、役割も夕方カーテンを閉めて歩く人、食後の片付け、お花の水遣り等自分の出来る事を自然と行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩などに出かけている。散歩には良い場所で周辺地域は緑やお花が一杯ある。入居時より体力が落ちてきて、散歩も5分位がやっとの人もあるが、状態に合わせて、庭に出て日光浴をするなど外に出る機会をもつように努めている。月に1~2回車で夕食に出掛けることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は掛けていないが、各ユニット入り口は施錠している。周辺は住宅街だが駅に近く車の通行量は少ない。	○	鍵を掛けることが必然になってしまうことの弊害があるため、利用者の状態を見ながら、施錠しなくとも良い時間帯が作れるよう検討・工夫されることを期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火訓練は消防署の立会いのもと計画的に実施している。夜間の訓練や地震・水害を想定した訓練はまだ行われておらず、地域の人への呼びかけもこれからの課題である。	○	自治会加入と同時に地域住民に働きかけ、防災訓練時地域住民へ参加を呼びかけ協力を仰ぐ等体制を考慮しておくことが望まれる。また、夜間を想定した訓練や食料の備蓄・避難場所の確保・緊急連絡網のテスト等日頃の訓練も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が立て調理された食事が届く。食器も彩りよく楽しめる。食事が楽しみという人や完食できない人、状況は様々だが、さり気ない介助で完食を促している。煮物が中心の献立にデザートが付いてバランス良い薄味の食事である。お茶を飲まない人にも声を掛けて勧め、食事量や水分摂取量に配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から、中に入ると明るく清潔な空間が広がっている。ゆったりと穏やかな時間が流れ、カウンター式の調理場からリビングルームが見渡せ、テーブルが3グループに別れセットされている。利用者の手作りの作品や絵が飾られ、敷地内には野菜やお花が植えられ利用者で育てている。浴室やトイレも清潔で安全性に配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には手洗いとクローク、ベッドが備え付けられている。窓の外はベランダも広く近隣の緑が眩しい。各室とも利用者の好みと生活歴が伺える飾り付けがされ、自分の部屋として居心地よい生活空間にしている。		